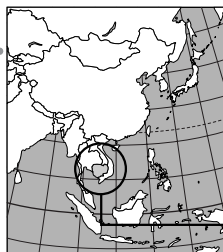


# ユニセフ 子ども物語

## 地球に生きる子どものくらし

Cambodia

## カンボジア



地図は参考のために掲載したもので、国境の法的地位について何らかの立場を示すものではありません。



## 豊かな実りがもたらす家族の幸せ

### ★ 苦しい生活

ニームはオッターミアンチェイ州の農村に住む10歳。両親と3人の弟の6人家族です。小さな畑でほそぼそと野菜をつくる生活は苦しく、育ちざかりのニームたちはおなかいっぱい食べることができず、いつもおなかがすいています。だから、みんなやせていて、病気がちです。ニームは学校に行きたいと思っているのですが、毎日の生活にも苦労している両親に、言い出すことはできません。

### ★ 安定した生活への変化

ニームの住む村で、ユニセフが支援して、広い畑で野菜やくだものを育てる「家庭菜園活動」が行われることになりました。この活動に参加できれば、野菜やくだものがたくさん収穫できるので、収入が増え、生活が良くなります。「活動に参加したいと思うんだ。今より大きな畑で野菜やくだものをつくることができたら、暮らしが良くなって、みんなが元気になれるし、ニームたちは学校に行けるようになるよ」と説明会に出たお父さんが言いました。

「お父さん！ぼく、お手伝いをするよ。学校に行きたいんだ！」ニームは目をきらきらさせて答えました。おなかいっぱい食べられる！元気になれる！学校に行けるようになる！うれしくて胸がドキドキします。



村の会議で、ニームの家族のやる気が認められ、家庭菜園活動に参加できることになりました。野菜やくだものの種、道具が届けられ、お父さんとお母さんは新しい野菜と

くだものの育て方、注意することを専門の指導員さんから教えてもらいます。家族が力を合わせて育てた野菜やくだものは順調に育ち、畑は豊かな実りでいっぱいになりました。収穫したものを市場で売り、たくさんの収入を得ることができました。

### ★ 健康になって学校に通う楽しさ



家族はいつも畑のことを話しています。生活も安定し、ニームたちはすっかり健康になり、長男のニームと、次男のリンが学校に行けるようになりました。すぐに友だちもできて、いつも元気いっぱいです。毎日、家で学校の話をするニームに、お父さんとお母さんは「学校が楽しくてよかったね。一生懸命勉強するんだよ」と笑顔で励まします。

学校が終わると、ニームは両親が働く畑に走って行きます。畑にはさまざまな実りが育っていて、見ていると幸せな気持ちになるからです。ニームは「元気に大きくなるんだよ」と声をかけながら、手伝いをするのです。



<文・構成：(財)日本ユニセフ協会>

カンボジアは日本のほぼ半分の大きさで、人口は約1300万人です。90%以上がクメール人（カンボジア人）で、ほかにチャム族、ベトナム人、華人（華僑）、20以上の少数民族がいます。アンコールワットは世界文化遺産のひとつとして非常に有名です。歴史的にはフランスによる植民地支配、ポル・ポト政権による伝統的な社会の破壊、ベトナムとの紛争、大量の難民問題、UNTAC（国連カンボジア暫定統治機構）による支援、と長く険しい道のりをたどり、平和への新たな歩みを始めたばかりの国です。



手入れされた畑  
©日本ユニセフ協会

# 安定した生活は 子どもを元気に育てる 基盤

背景写真：果物の木 ©日本ユニセフ協会

## これから改善がはじまる村

物語の地、オッターミアンチェイ州アンロンベン村はカンボジア北部の村。アンコールワットで有名なシェムリアップからひどい悪路を車にゆられて5時間もかかります。お店や飲食店でも電気設備が整っていないところもあり、多くが粗末なつくりです。ポル・ポトが最後まで残った影響で、いまだに地雷や不発弾が残る危険な場所が多く、人びとの生活はきびしく、ユニセフの支援も始まったばかりです。子どもに地雷を理解してもらったり、生活基盤を安定させて、心身ともに元気になるための支援が始まっています。

(T・NET通信25号のカンボジア視察報告をご覧ください)

日本との比較(くわしい統計は「世界子供白書2003」をご覧ください)

項目	カンボジア	日本
5歳未満児の死亡率(2001年)	138人/1000人あたり	5人/1000人あたり
1歳未満児の死亡率(2001年)	97人/1000人あたり	3人/1000人あたり
1人あたりのGNI*(2001年)	270米ドル	35,990米ドル

\*GNI：国民総所得

出典：世界子供白書2003

## 家庭菜園活動の成果

この村での活動は試験的に始まったばかりで、村では5家族が参加しています。一番うまくいっているのは4人の子どもがいる若い夫婦です。活動に参加するまでは生活がきびしく、学齢期の2人の子どもたちも学校には通っていませんでした。畑で野菜、くだものなどを育て、庭で家畜、池で魚を育てて収穫したものを市場で売っています。菜園づくりは専門の指導員からしっかり指導を受けられるため、収穫も順調

で、収入が増えて生活が安定しました。子どもたちの食生活が改善され、健康状態がよくなり、上の2人の子どもたちは学校に通うことができるようになりました。ユニセフの担当者もこの活動をより多くの家族に広めて、人びとの生活が改善できるように願っています。

## 米銀行の成果と課題

米銀行は2000年から始まった生活改善のための助け合い活動です。村人が米を出し合い、備蓄して、食事用または作付け用の米が足りなくなった時に一般より安い利息で米を借りることができます。



米銀行 ©日本ユニセフ協会

### ●成果

以前は収穫が不安定で、子どもや女性の健康状態がよくなり、両親が出稼ぎに出るという状況でしたが、食生活の改善が進み、健康になり、家族と一緒に暮らし、子どもが学校に通えるようになってきました。

### ●課題

米づくりには天候が大きく影響します。米銀行に頼る村人が増えてくる中で、不作だった時の米の備蓄はどうするか、両親が出稼ぎに出たときの子どもたちの生活をどうするかなどは、解決していかななくてはならない課題です。

### ●カンボジア指定募金貸し出しキットのご案内●

ユニセフ指定募金ではカンボジアの農村の子どもたちが健康に育ち、学校にも通えるように、地域で教育を広め、互いに協力できる仕組みを整える事業を応援しています。指定募金の内容を知りたい方のために「指定募金用資料キット」の貸し出しを行っています。カンボジアのほかにも、モンゴルの指定募金用資料キットもあります。

■キットの内容…①プロジェクトの背景・解説、②VTR「カンボジアの子どもと未来(15分)」、③掲示用写真資料、④現地の識字教材の4種類です。

■貸し出し期間や貸し出し方法…学校事業部(03-5789-2014)までお問い合わせください。



アンロンベンの子どもたち  
©日本ユニセフ協会